

定例記者会見 市長コメント（概要）

① 「戦後 80 年 釜石と戦災～未来に伝えるために～」の開催について 資料 1

戦争末期の昭和 20 年 7 月 14 日と 8 月 9 日、釜石は 2 度にわたる艦砲射撃を受け、多くの人々が死傷し市街地は壊滅状態となった。

あれから 80 年が経過する今、市では 8 月 3 日（日）、釜石市民ホールで、「戦後 80 年釜石と戦災～未来に伝えるために」と題した特別行事を開催する。

戦後 80 年が経過し、戦争体験者が減少していく中で、当時の体験を伝えることが非常に難しくなっている。国内で唯一、2 度の艦砲射撃を受けた当市が、戦争は全ての人々が被害者であり、そこに幸せは決して存在しないこと、平和の尊さといったことを市内外に訴え、伝えることが当市の重要な役割であると考え、今回の特別行事を開催するもの。

主な内容としては、実際に戦争を体験された佐野睦子^{さのむつこ}さんや、ご自身の祖父が戦争当時、釜石捕虜収容所長を務め、「元釜石捕虜収容所長から孫への遺言・降伏の時」を上梓^{じょうし}された小暮聡子^{こぐれさとこ}さんによる講演のほか、「戦災を未来に伝えるために」をテーマとした幅広い世代の市民の方々の参加によるパネルディスカッションを行う。

このほか、「廃墟と化した鉄の町 釜石艦砲射撃の記録」の映画上映や戦災を未来に伝えていくためのパネル展示を行い、様々な角度から戦後 80 年を振り返り、未来について考えるきっかけとし、戦後復興を成し遂げた先人の取り組みについて学びながら、平和の尊さを改めて認識してまいりたい。

②令和 7 年度釜石市戦没者追悼・平和祈念式の開催について 資料 2

昭和 20 年 7 月 14 日と 8 月 9 日、2 度にわたる艦砲射撃に見舞われた当市では、太平洋戦争をはじめ過去の戦争において犠牲となられた戦没者及び戦災殉難者の御霊をお慰めし、再び惨禍を繰り返すことのないよう、恒久平和の確立を祈念するため、毎年 8 月 9 日に戦没者追悼・平和祈念式を開催している。

戦後 80 年となる今年の式典は、8 月 9 日（土）午前 11 時から釜石市民ホールで開催し、遺族代表らによる追悼の言葉や、艦砲射撃体験者により書かれた手記の朗読、祭壇への献花などを予定している。